

平成26年度
第1回 区政モニターアンケート
調査報告書

《ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する意識調査》

平成27年3月



足立区政策経営部広報室区政情報課

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の概要	3
2 調査の目的	3
3 調査の時期	3
5 回答者の構成	4
6 調査結果・分析の見方	4
第2章 調査結果の分析及び所管意見	5
【所管意見総括】 調査結果の考察、今後の活用について	7
■ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する意識調査	9
（1）認知状況	9
（2）認知経路	10
（3）認識	11
（4）平成25年1年間の薬の処方の有無	13
（5）薬局で薬をもらう際の対応	14
（6）希望する理由	16
（7）希望しない理由	18
（8）ジェネリック医薬品を使わなくなった経緯	19
（9）使用、または使用継続の検討要因	20
（10）必要な情報	22
（11）平成25年1年間のひと月あたりの薬代	24
（12）先発医薬品と価格を比較した場合の使用意向	26
（13）希望シールの保険証への貼付有無	27
（14）希望カードの使用有無	29
（15）より使用されるために、中心になって取り組むべき団体	31
（16）区が負担する医療費の削減のため、普及・促進の取組みへの評価	33
（17）使用を納得させる、または使用に前向きになるために必要な取組み	35
（18）自由意見	36
■使用した調査票	39

第 1 章 調査の概要

1 調査の概要

この報告書は、平成26年度第1回区政モニターアンケート「ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する意識調査」をまとめたものです。調査結果の分析とあわせて、アンケート集計結果に関する所管意見を記載しています。

2 調査の目的

足立区では、区民の医療費自己負担額軽減と国民健康保険財政の健全化、医療費の適正化を図るために平成23年度よりジェネリック医薬品の利用促進に取り組んでまいりました。国民皆保険制度の堅持に加え、区の財政状況も厳しさを増す中で、ジェネリック医薬品の利用を進め、薬剤費の支出を少しでも抑えることで新たな財源を生み出し、区民の健康維持・増進に役立つ事業などに振り向けていきたいとの願いからです。

今年4月、足立区でのジェネリック医薬品の使用率が、全ての医薬品のうち、32.6%となり、国が定めた当初の目標の使用率30%を達成したこと、さらにジェネリック医薬品の使用率が23区で第1位になるなど、足立区の医療機関と連携した取り組みにより、ジェネリック医薬品の普及に成果が現れてきています。

区では、このような状況をジェネリック医薬品推進の好機ととらえ、さらなるジェネリック医薬品の普及促進と新たな施策立案のため、区政に関心の深い区政モニターへジェネリック医薬品のアンケート調査を実施しました。

3 調査の時期

平成26年10月1日（水）～10月17日（金）

4 今回の区政モニター数、回答者数

区政モニター数 199人

回答者 188人（回答率94.5%）

〔内訳〕 郵便回答 117人

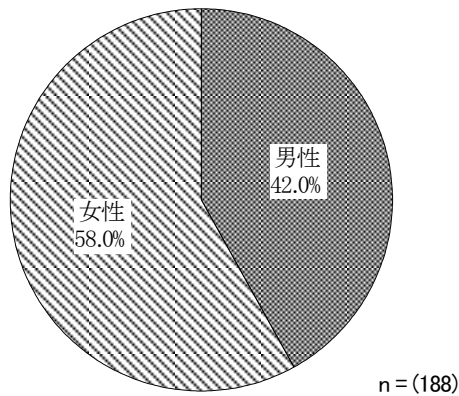
インターネット回答 71人



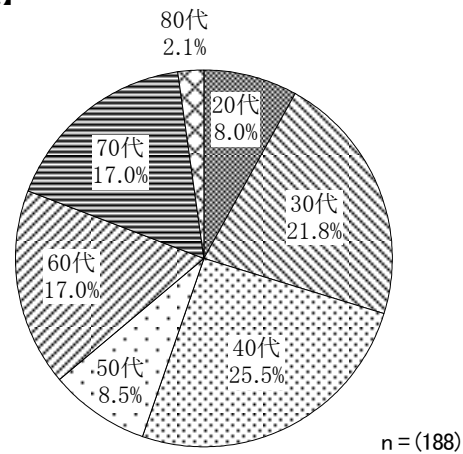
5 回答者の構成

(1) 性別、年代別割合（全体）

【性別】



【年代】



(2) 地域ブロック別

ブロック	1ブロック	2ブロック	3ブロック	4ブロック	5ブロック
人数	30	8	5	13	25

ブロック	6ブロック	7ブロック	8ブロック	9ブロック	10ブロック
人数	24	20	14	6	18

ブロック	11ブロック	12ブロック	13ブロック	計
人数	12	4	9	188

ブロック区分図



6 調査結果・分析の見方

回答比率（％）は、その設問の回答者を基礎として算出しました。従って、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100％を超えます。また、原則として小数点第2位を四捨五入して小数点第1位まで示したもので、比率の合計が100％に満たない、または上回ることがあります。

また、記述回答は、原文の趣旨を損なわないように要約し掲載しています。

第 2 章 調査結果の分析及び所管意見

【所管意見総括】 調査結果の考察、今後の活用について

担当所管 ジェネリック・保健事業推進担当課

今、足立区のジェネリック医薬品使用推進への取り組みは全国的に注目されています。ジェネリック医薬品普及推進協議会は、県レベルではあるものの、住民に身近な基礎的自治体で取り組んでいるのは少ないからです。特に首都圏では足立区だけです。

そして、平成23年に立ち上げた足立区ジェネリック医薬品普及協議会は、医師会・歯科医師会・薬剤師会、そして地域の中核病院の協力のもと、それぞれの役割や立場においてジェネリック医薬品の使用促進に努めてきました。

その結果、当初設定した平成26年度末までに使用率を30%（旧指標）とする目標を平成26年4月に達成し、東京23区においてもジェネリック医薬品使用率第1位となりました。

そこで、さらなるジェネリック医薬品推進のために、区政モニターの方々の知恵をお借りし新たな施策に反映させていこうと、今回の調査を実施するに至りました。実際に「お薬を使用している区民は何を考え、何を望んでいるのか」区民感覚を知り、区民に協力をいただきながら具体的な行動計画を創りあげる必要性からです。

今回モニターアンケートの回答から分かったことは、以下のように整理することができます。

1. 使っていない人は「効き目に違いがあるように思うから」
2. 使うなら、安さより「効き目と安全性」や「医師・薬剤師からの勧め」
3. 7割以上の方が区のジェネリック医薬品普及・促進について賛成
4. 使用に前向きになるために必要な取り組みは「情報提供」

特に、ジェネリック医薬品の推進には、「安全・安心」の積極的な情報提供が欠かせないことがわかりました。

そして、行政は「やっている」と思っている、「シールやカード」が知られてないことなど、まだまだ、行政と区民とのギャップがあることがわかりました。

特に、ジェネリック医薬品の情報は、国、製薬会社、そして区から、それぞれの持っている情報を、積極的に公表・広報し、それを継続して区民に伝えていく必要があります。

そこで、今回のアンケートから課題がいくつか明らかになったため、今後、以下のとおり課題解決のための対策を講じてまいります。

・安全性を説明し、使用に関して区民の不安を解消していく。

医師会・薬剤師会の協力のもと、ジェネリック医薬品に関する情報提供、区による相談窓口、住区センターや地域学習センターでの高齢者向け説明会などを行う。

具体的には、

■薬剤師会の協力のもと、ジェネリック医薬品のワーキンググループを組織しジェネリック医薬品の勉強会を実施する。そこでの情報をジェネリック医薬品普及協議会で共有して、区民へ広報する。

■区民へのジェネリック医薬品の情報を伝えるための勉強会を開催する。

地域学習センターなどで、ジェネリック医薬品を知る講座を開催する。

高齢者を対象に、住区センターでジェネリック医薬品説明会を開催する。また、地域の健康推進委員と協働してジェネリック医薬品勉強会を実施する。

■ジェネリック医薬品使用推進から得られる「社会貢献」を見える化する。

「ジェネリック医薬品差額通知」等から推計した削減効果額を公表し、医療費削減にどれだけ効果が出たのかわかるようにする。グラフや図などで、分かりやすく表現し、経年変化なども盛り込み、ジェネリック医薬品推進の経過などを可視化する。

同時に、区民の協力がジェネリック医薬品推進につながったことも広報し、区民のジェネリック医薬品使用に関するモチベーションを上げていく。

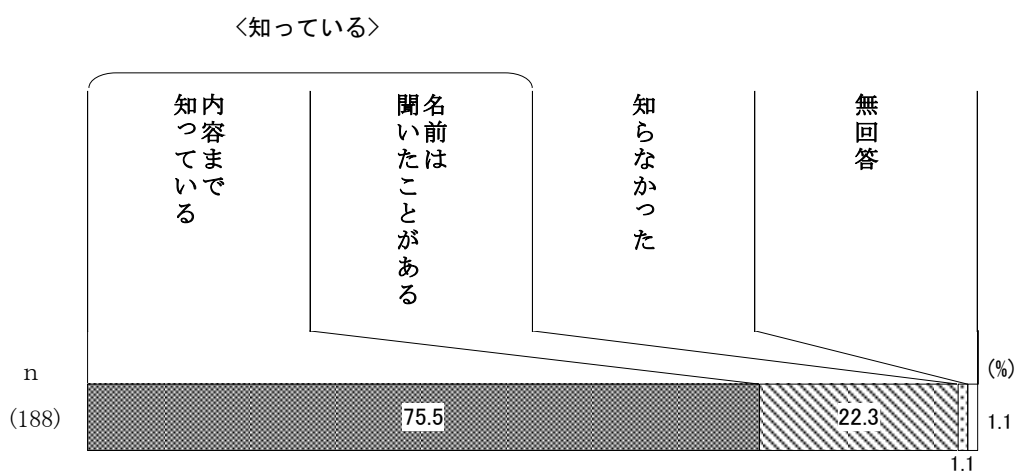
最後に、真摯に回答していただいた区政モニターの皆様に感謝するとともに、この貴重なアンケート結果をジェネリック医薬品の普及のために活用することを、ここに約束します。

ジェネリック医薬品の推進は、国民皆保険制度を支え、医療給付を必要な方に届ける社会保障制度の維持にもつながっていくものです。未来に向けて、そして、次の世代に医療保険制度のバトンを渡していくためにも、さらなる推進が求められています。今後も、足立区は区民と共にジェネリック医薬品推進に努め「活力あるあだち」を築いてまいります。

■ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する意識調査

（１）認知状況

問１ あなたは、ジェネリック医薬品を知っていましたか（○は１つだけ）。



「内容まで知っている」（75.5%）が7割台半ば、「名前は聞いたことがある」（22.3%）が2割強となっており、それらを合わせた、〈知っている〉（97.8%）という人は98%近くにのぼる。

【所管意見】

「ジェネリック医薬品の認知状況」について

〔問１の集計結果を踏まえて〕

【現状】

ジェネリック医薬品については、約3/4の区民が「内容まで知っている」（75.5%）と答えており、「名前は聞いたことがある」（22.3%）と合わせると、〈知っている〉（97.8%）となり、ほとんどの区民が認知している。

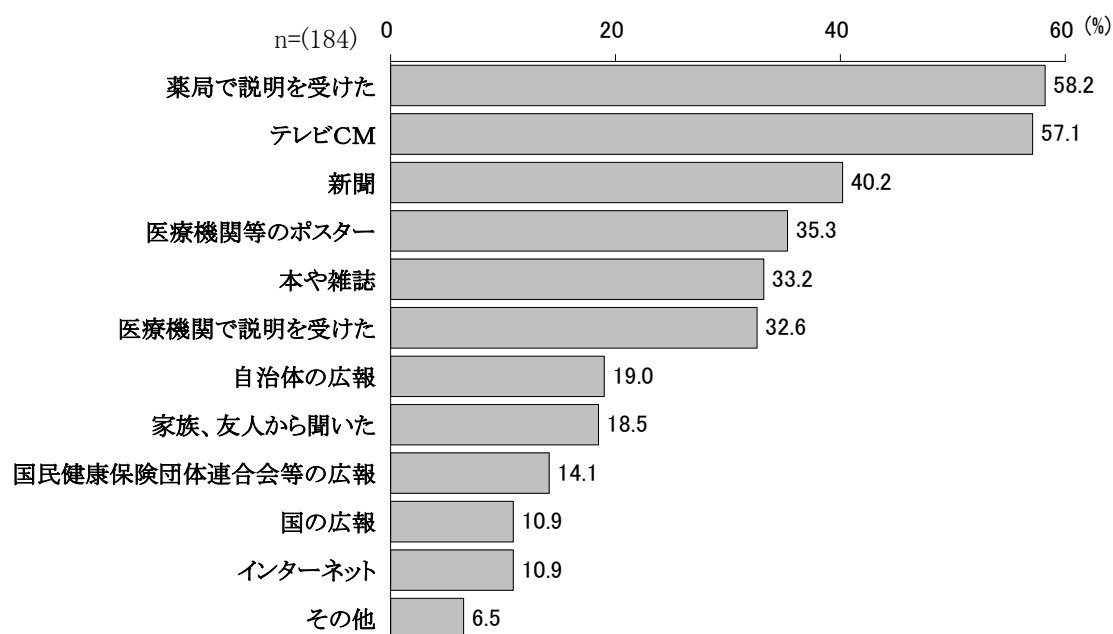
【課題】

「知っていること」と、「使用していること」には、まだギャップがある。ジェネリック医薬品の「使用」につなげるためには、さらなる認知度の向上と、ジェネリック医薬品を知っていて、かつ「安心して使用できる」環境の整備が求められる。ジェネリック医薬品の普及促進には、正しい知識と安全性の普及に努めなければならない課題がある。

(2) 認知経路

問1で「1. 内容まで知っている」、または「2. 名前は聞いたことがある」とお答えの方は、次の問2から問4について、お答えください。

問2 ジェネリック医薬品のことをどうやって知りましたか（○はあてはまるものすべて）。



1位. 「薬局で説明を受けた」(58.2%)

2位. 「テレビCM」(57.1%)

ともに5割台半ばを超えて高くなっている。

3位. 「新聞」(40.2%) がほぼ4割

「医療機関等のポスター」(35.3%)、「自治体の広報」(33.2%)、「医療機関で説明を受けた」(32.6%) が3割台となっている。

【所管意見】

「ジェネリック医薬品の認知経路」について

[(2) の集計結果を踏まえて]

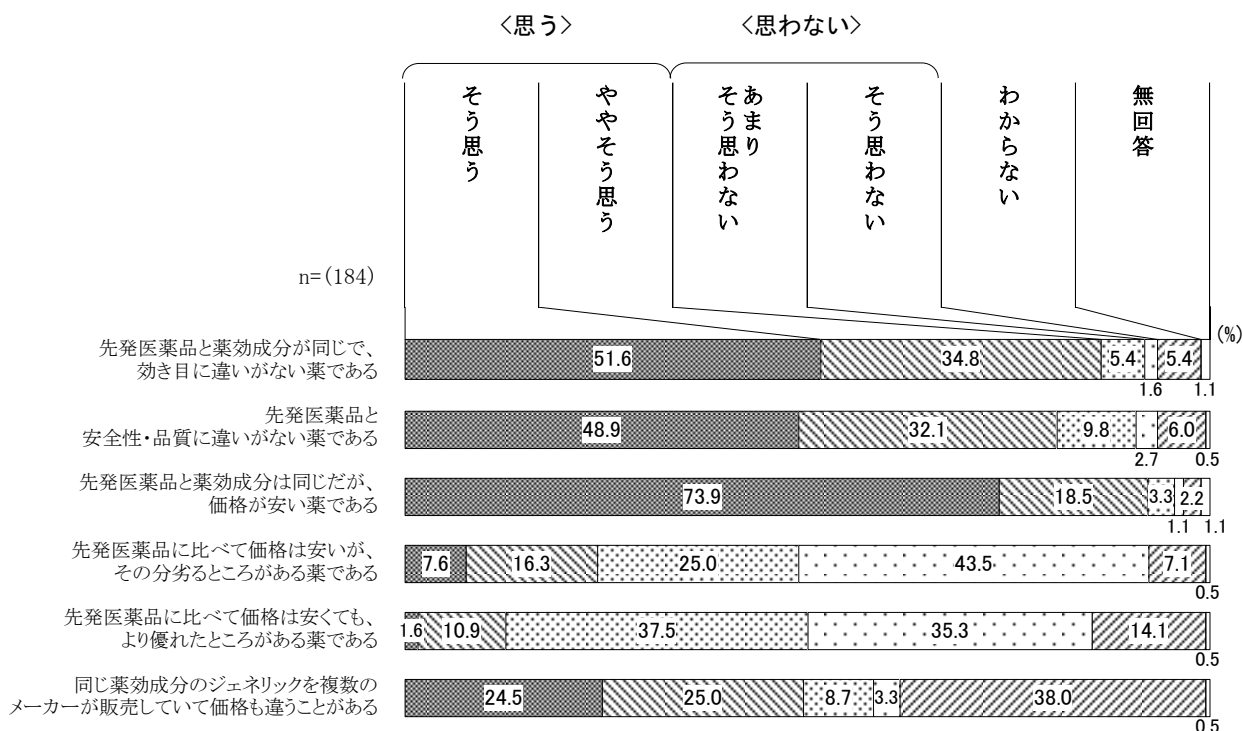
【現状】

「薬局で説明を受けた」(58.2%) に続き「テレビCM」(57.1%)、新聞(4割)、本・雑誌(3割強)と、マスコミからの伝達経路が高い。一方で、「医療機関等のポスター」(35.3%)、「医療機関で説明を受けた」(32.6%) と共に3割を超え、医師、薬局等での医療現場における直接のやりとりが有力な認知経路になっている。

(3) 認識

問1で「1. 内容まで知っている」、または「2. 名前は聞いたことがある」とお答えの方は、次の問2から問4について、お答えください。

問3 ジェネリック医薬品に関して、以下の項目について、どのように感じているかお答えください（○はそれぞれ1つだけ）。



「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた＜思う＞は、「先発医薬品と薬効成分は同じだが、価格が安い薬である」(92.4%)が9割を超えて最も高く、次いで「先発医薬品と薬効成分が同じで、効き目に違いがない薬である」(86.4%)、「先発医薬品と安全性・品質に違いがない薬である」(81.0%)が8割台となっている。

また、「そう思わない」と「ややそう思わない」を合わせた＜思わない＞では、「先発医薬品に比べて価格は安くても、より優れたところがある薬である」(72.8%)と「先発医薬品に比べて価格は安い、その分劣るところがある薬である」(68.5%)が、7割前後で高くなっている。



【所管意見】

「ジェネリック医薬品の認識」について

〔(3) の集計結果を踏まえて〕

【現状】

「先発医薬品と薬効成分は同じだが、価格が安い薬である」と〈思う〉が（92.4%）と一番高く、「成分が同じで価格が安い」との認識が浸透している。

次いで「成分が同じで、効き目に違いがない薬である」（86.4%）。

「先発医薬品と安全性・品質に違いがない薬である」も（81.0%）と高い。

「安いが効き目、安全性・品質は同等」というジェネリックの基本的認識は広がっている。ただし、「効き目」と「安全性・品質」について「安さ」ほどくそう思う〉の割合が高くないことに留意したい。

一方で、「価格は安くとも、よりすぐれた薬である」については〈思わない〉（72.8%）。

また、同一成分のジェネリック医薬品が複数のメーカーに作られていることや、同一成分でも価格差があることなどの認知は（49.5%）と約半数。

まだまだ、一步踏み込んだジェネリック医薬品の知識は持たれていないと考える。

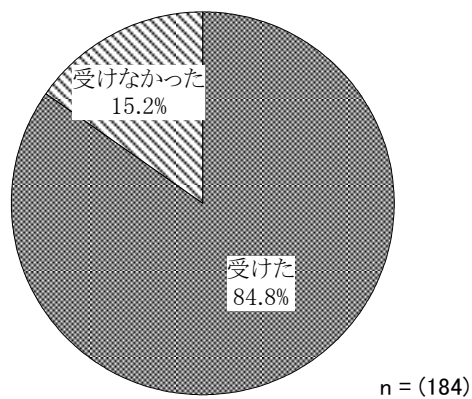
【課題】

- ◎ ジェネリックは安いだけでなく、「効き目、安全性・品質が同等」という安心・信頼感、さらに剤形工夫など先発よりすぐれたものもあることを、さらにアピールすることが重要である。
- ◎ ジェネリック医薬品メーカーにも、ジェネリックの安全性・品質や種類、価格など、積極的に情報提供に取り組んでもらい、さまざまなジェネリック医薬品を知っていただくことがジェネリック医薬品普及の推進につながる。

(4) 平成25年1年間の薬の処方の有無

問1で「1. 内容まで知っている」、または「2. 名前は聞いたことがある」とお答えの方は、次の問2から問4について、お答えください。

問4 あなたは、平成25年1月から12月までの1年間に医療機関を受診して、薬の処方を受けましたか（○は1つだけ）。



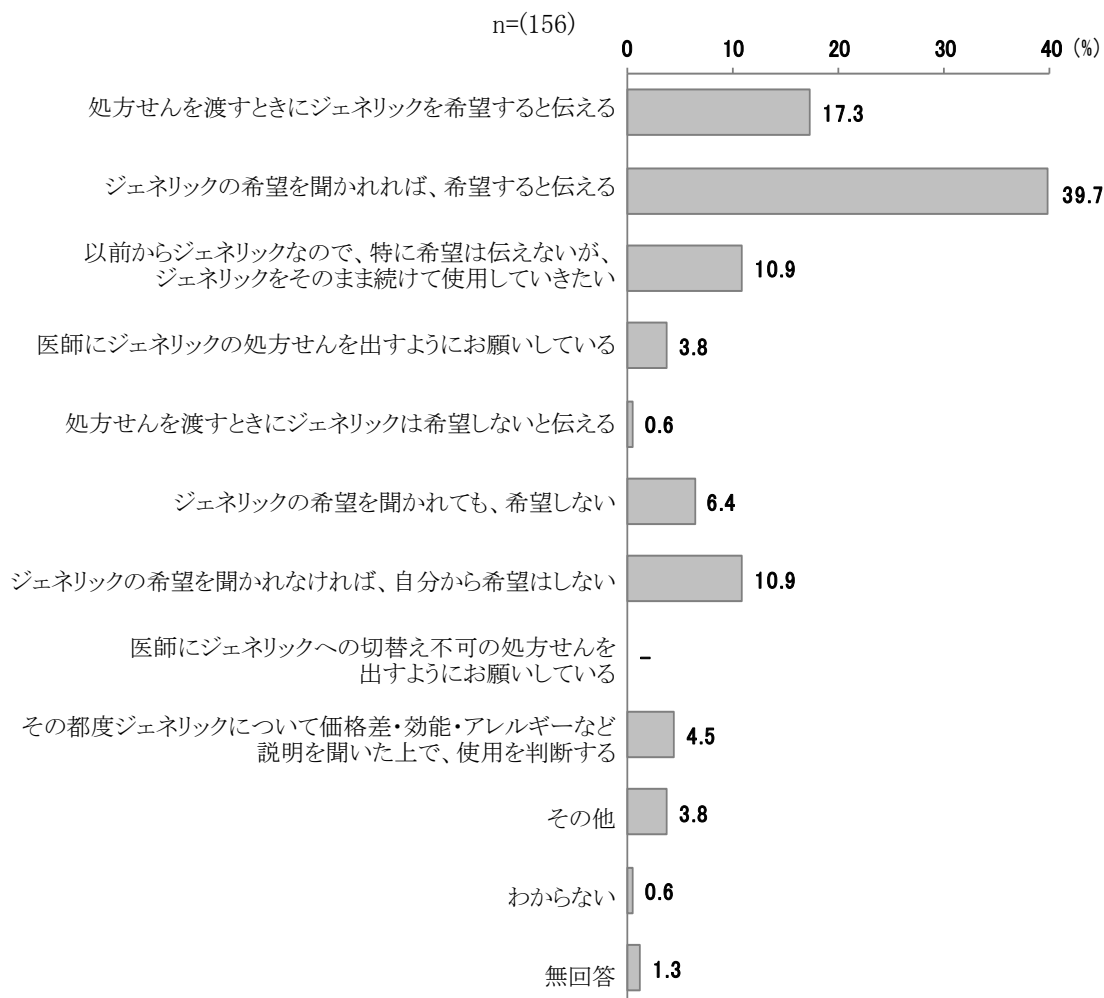
「受けた」（84.8%）が8割台半ば、「受けなかった」（15.2%）が1割台半ばとなっている。

受診の8割5分の方は、薬を処方されている。

（５）薬局で薬をもらう際の対応

問４で「１．受けた」とお答えの方に

問４－１ あなたは薬の処方を受けて薬局で薬をもらうときに、ジェネリック医薬品についてどのように対応していますか（○は１つだけ）。



「ジェネリックの希望を聞かれれば、希望すると伝える」（39.7%）が４割近くで最も高く、やや離れて、「処方せんを渡すときにジェネリックを希望すると伝える」（17.3%）、「以前からジェネリックなので、特に希望は伝えないが、ジェネリックをそのまま続けて使用していきたい」、「ジェネリックの希望を聞かれなければ、自分から希望はしない」（ともに10.9%）が１割台で次いでいる。

【所管意見】

「薬局で薬をもらう際の対応」について

〔(5) の集計結果を踏まえて〕

【現状】

「ジェネリックの希望を聞かれれば伝える」と「自ら希望すると伝える」、「ジェネリック医薬品の処方を頼んでいる」のジェネリック医薬品の使用を支持している層は合計で60.8%に及ぶ。これに、現在「ジェネリック医薬品を処方されているからそのまま続けたい」（10.9%）を加えると71.7%となり、薬を処方されている方の約7割はジェネリック医薬品を希望していることが分かる。

一方、「自ら希望しない」、「聞かれても希望しない」、「聞かれなければ希望しない」の不支持層は17.9%であった。

「その都度説明を聞き選ぶ」（4.5%）もある。

【課題】

ジェネリック医薬品の使用を推進するには、不支持層の約2割の方たちにジェネリック医薬品の正しい情報を提供し理解を高めていく必要がある。

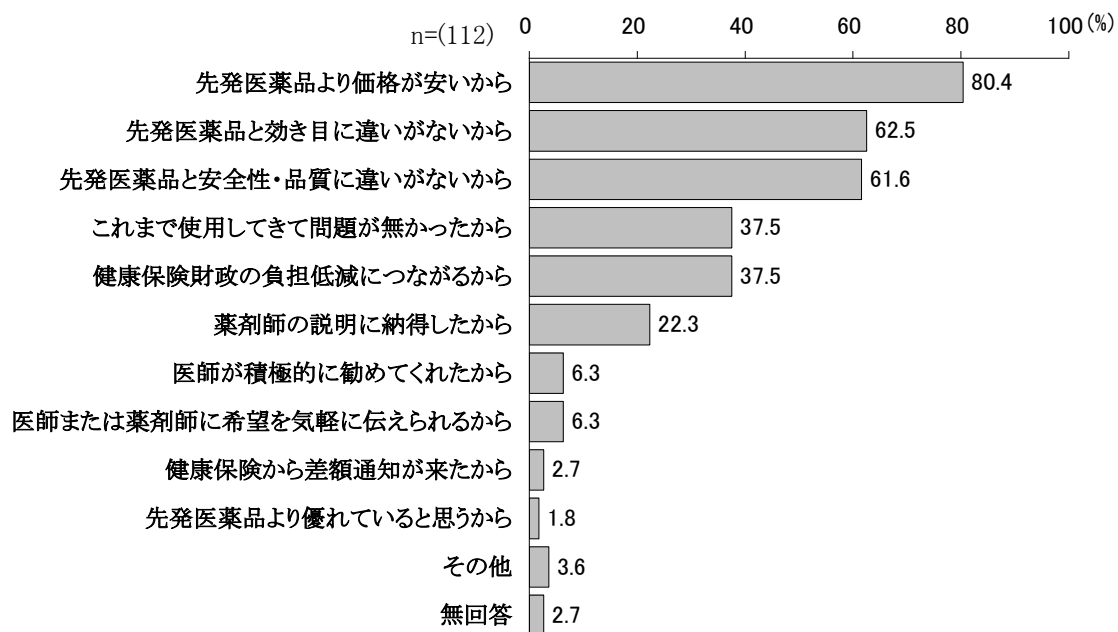
対策としては、医師・薬剤師の説明やジェネリック医薬品の安心情報を周知し、納得のうえで、ジェネリック医薬品への切り替えに役立つよう、あらゆる機会を利用して働きかけていく。

(6) 希望する理由

問4—1で「1.」～「4.」のいずれかに○を付けた方に

問4—2 あなたがジェネリック医薬品を希望する理由は何ですか

(○はあてはまるものすべて)。



「先発医薬品より価格が安いから」(80.4%)が8割を超えて最も高く、次いで、「先発医薬品と効き目に違いがないから」(62.5%)、「先発医薬品に安全性・品質に違いがないから」(61.6%)が6割台となっている。

【所管意見】

「ジェネリック医薬品を希望する理由」について

〔(6) の集計結果を踏まえて〕

【現状】

ジェネリック医薬品支持の理由の一番は「安いから」(80.4%)であり、圧倒的多数の意見である。

次に「効き目に違いがない」(62.5%)、「安全性・品質に違いがない」(61.6%)と続いている。ジェネリックの基本的理解が広がる中、患者としてジェネリックを主体的に希望する意志が見て取れる。

「使用していて問題ない」(37.5%)、「薬剤師の説明に納得した」(22.3%)「医師の積極的な勧めで」(6.3%)と使用した実感や医師・薬剤師の勧めも要因となっている。

「健康保険財政の負担低減になる」(37.5%)と保険財政を意識した回答が4割弱あるのは社会貢献への意向の表れだろう。

「ジェネリック医薬品差額通知が来たから」(2.7%)がわずかなのは、区政モニターで差額通知対象者が少ないことが読み取れる。

【課題】

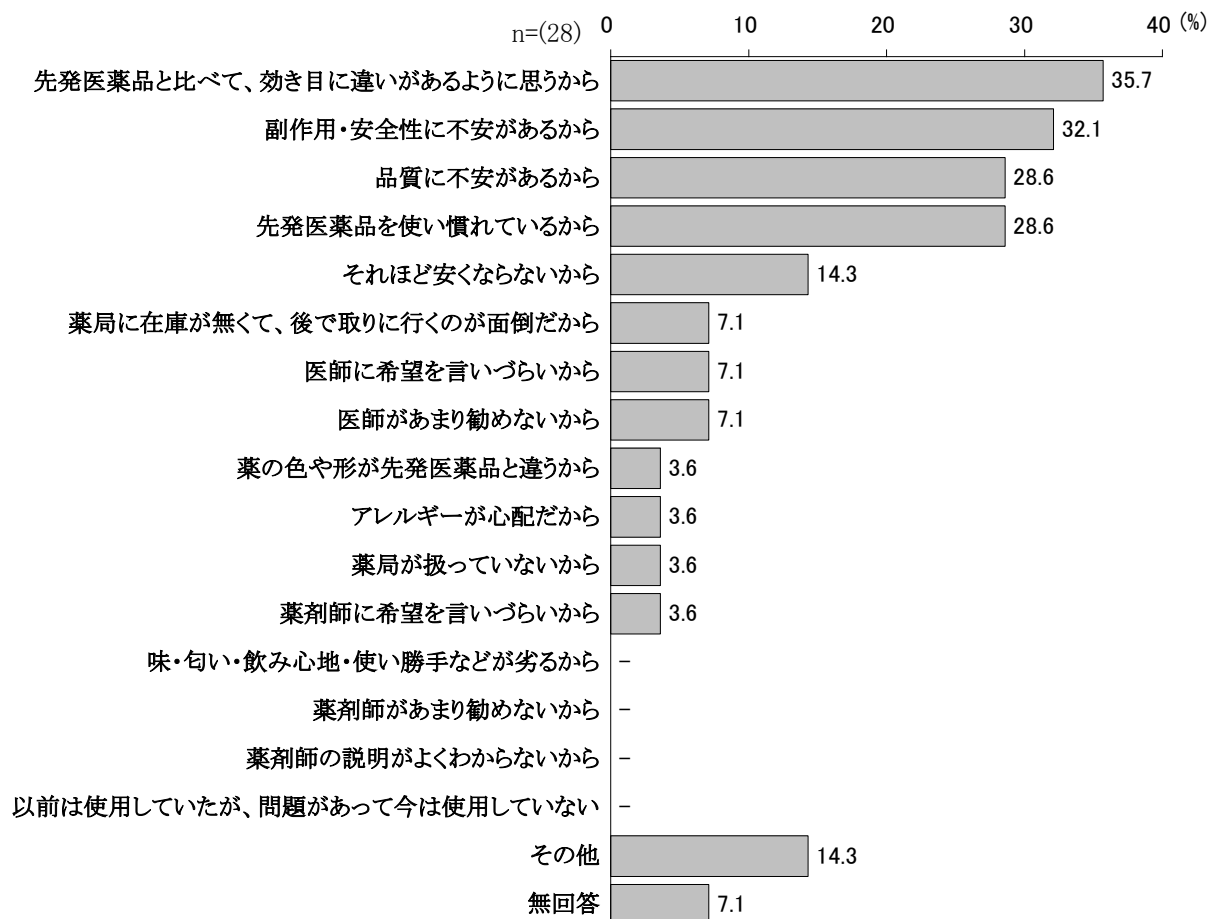
ジェネリック選択にためらいのある層には「薬剤師の説明」「医師の勧め」が有効であり、この数値が上がることを期待される。



(7) 希望しない理由

問4—1で「5.」～「8.」のいずれかに○を付けた方に

問4—3 あなたがジェネリック医薬品を希望しない理由、または、以前はジェネリック医薬品を使用していたが、今は希望しない理由は何ですか（○はあてはまるものすべて）。



「先発医薬品と比べて、効き目に違いがあるように思うから」（35.7%）が3割台半ばで最も高く、次いで、「副作用・安全性に不安があるから」（32.1%）、「品質に不安があるから」、「先発医薬品を使い慣れているから」（ともに28.6%）が3割前後となっている。

【所管意見】

「ジェネリック医薬品を希望しない理由」について

〔(7) の集計結果を踏まえて〕

【現状】

この設問に対する回答実数が 28 と少数なため、理由は分散した。

第1位は「効き目に違いがあるように思える」(35.7%)。

第2位は、「副作用・安全性に不安」(32.1%)。

第3位は「品質に不安」(28.6%)。

と順に続く。

やはり効能、品質、安全性に関する懸念、不安が根底にあることがわかる。

また、「先発医薬品を使い慣れている」(28.6%) と保守的な意見もある。

注目すべき点は「それほど安くないから」(14.3%)。

ジェネリック医薬品の支持層は支持の理由に〈安い〉が8割あったのに対し、不支持層は「価格の効果を感じない」が理由にあげている点である。ここにも注視したい。

医師が絡む要因として、「希望を言いづらい」(7.1%)「医師があまり勧めない」(7.1%)。

薬剤師が絡む要因として、「希望を言いづらい」(3.6%)「薬局が扱っていない」(3.6%)「在庫が無く、後で取りに行くのが面倒」(7.1%) となっている。

「味・飲み心地・使い勝手などが劣る」、「以前は使用していたが問題があり今は使用していない」、実際にジェネリック医薬品を使用して、問題があり不支持となったものの回答が0であった。

【課題】

ジェネリック医薬品使用の不支持層が使用に躊躇するのは、「安全・安心」と「副作用」に対する不安、懸念であり、ジェネリック医薬品の安全性、効能などの正しい理解が浸透していないことが、ジェネリック医薬品普及の大きな阻害要因になっている。この認識を変えていただくには、やはり「医師・薬剤師の説明」が重要であり、今後も、医師会・薬剤師会の協力をいただきながら、「安心してジェネリック医薬品を使う環境」を整えていくための区の支援が必要と考える。

(8) ジェネリック医薬品を使わなくなった経緯

問4—3で「16. 以前は使用していたが、問題があって今は使用していない」とお答えの方に

問4—4 どんな問題があってジェネリック医薬品を使わなくなりましたか。

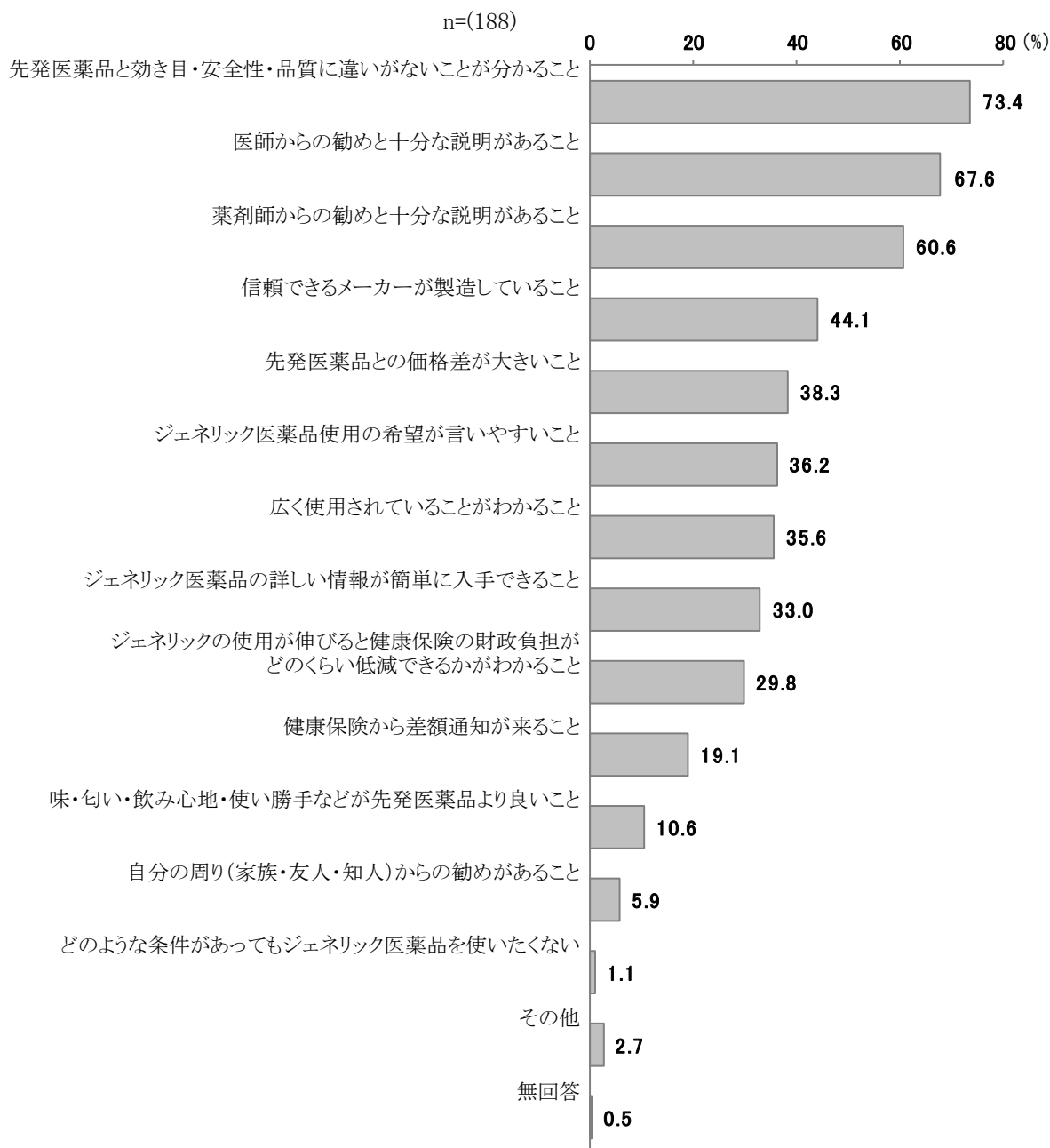
(○はあてはまるものすべて)

n=0

すでにジェネリックを使用しているケースでは問題が無く定着していることが伺える。

(9) 使用、または使用継続の検討要因

問5 あなたが今後、薬の処方を受ける場合、どんなことがあればジェネリック医薬品を使ってみたい、あるいは今後も使い続けようと思いますか（○はあてはまるものすべて）。



「先発医薬品と効き目・安全性・品質に違いがないことが分かること」(73.4%)が7割を超えて最も高く、次いで、「医師からの勧めと十分な説明があること」(67.6%)、「薬剤師からの勧めと十分な説明があること」(60.6%)が6割台前後となっている。

【所管意見】

「使用、または使用継続の検討要因」について

〔問5の集計結果を踏まえて〕

【現状】

ジェネリック医薬品を「使ってみたい」、(現に使っている人が)「使い続けようと思う」かについて問う本設問に対する結果の第1位が「先発医薬品と効き目・安全性・品質に違いがないことが分かること」(73.4%)。

第2位は、安全性に違いがないとの担保が得られる場合としての、「医師からの勧めと十分な説明があること」(67.6%)。

第3位「薬剤師からの勧めと十分な説明があること」(60.6%)と続く。

ジェネリック医薬品には、内服薬、外用薬、様々な形態があるが、一般の方が抱く薬のイメージとしては内服薬を考えやすく「飲んで体に入れる」ことから「効き目・安全性・品質」が重視される。それが回答の動機となっているといえる。

「信頼できるメーカーが製造していること」(44.1%)を挙げる回答も、安全性・品質が要因と考える。

それに続き「先発医薬品との価格差が大きいこと」(38.3%)、「希望が言いやすい」(36.2%)、「広く使用されていることがわかる」(35.6%)、「情報が簡単に入手できる」(33.0%)の4項目が3割台であった。

このように本設問では、ジェネリックについて最重要視されるのが効能・安全性・品質の同等性であり、その裏付けを専門家である医師と薬剤師に求めていることが分かる。

また「財政負担低減がわかる」への期待が約3割と比較的高率なのも注目される。

【課題】

医薬品の知識・情報は高度に専門的であるため、適正な判断は専門家である医師・薬剤師にゆだねざるを得ない。

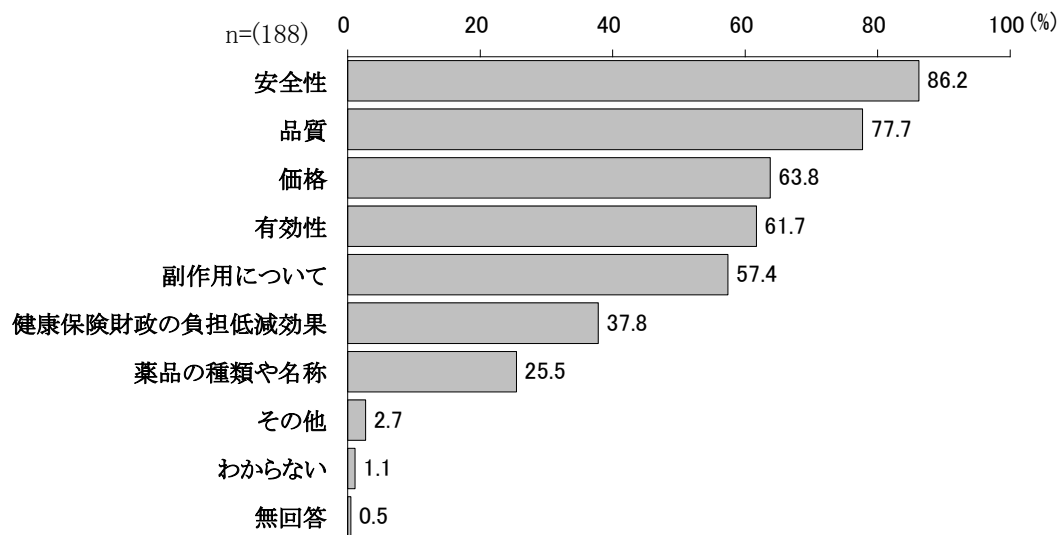
そのためにも、医師、薬剤師からの安全性、効能など使用者本人が納得する十分な説明が得られることが必要である。

また、ジェネリック医薬品メーカーの信頼も大きな要因になっており、テレビCM等でのイメージ広報だけでなく、薬に関する詳細な情報が入手できる環境整備が必要である。具体的には、先発医薬品との形状や使い勝手の違いをモニタリングするなど、使用者が必要としている、きめ細かな薬の情報をホームページ等で公開し、使用者がジェネリック医薬品を選択する際の動機につなげていく必要がある。

(10) 必要な情報

問6 ジェネリック医薬品について、あなたが必要だと思う情報は何ですか

(〇はあてはまるものすべて)。



「安全性」(86.2%)が8割台半ば、「品質」(77.7%)が8割弱で高くなっており、次いで、「価格」(63.8%)、「有効性」(61.7%)が6割台、「副作用について」(57.4%)が5割台となっている。

【所管意見】

「必要な情報」について

〔問6の集計結果を踏まえて〕

【現状】

ジェネリック医薬品について必要な情報として、

第1位「安全性」(86.2%)。

第2位「品質」(77.7%)。

第3位「価格情報」(63.8%)。

となった。「値段」よりも「安全性・品質」の2点に関心が高いことが明らかとなった。

また、「有効性」(61.7%)と「副作用について」(57.4%)も高い数字である。

ジェネリック医薬品は「安い」「価格」を“売り”にしてきたが、求められているのは、「安全・安心」と「品質」であり、この2点に関する情報提供はジェネリック医薬品メーカーの、さらなる努力が必要である。また、医薬品を処方、提供する場面における「医師・薬剤師」が情報提供において果たす役割も大きいと考える。

【課題】

問4-3、問5でも課題として浮かび上がった、ジェネリック医薬品の安全性、効能などの正しい理解が浸透していないことが、ジェネリック医薬品普及の大きな阻害要因になっていると考える。

国、自治体、医師会・薬剤師会等、関係する機関からのジェネリック医薬品に関する正しい情報発信・提供が求められる。

中でも「医師・薬剤師の説明」の役割が重要であり、今後も、医師会・薬剤師会の協力を仰ぎ、安全・安心してジェネリック医薬品を使っただけできるよう、区民へジェネリック医薬品に関する情報を提供する役割を担ってもらう。

また、ジェネリック医薬品メーカーの情報提供において果たすべき役割も大きく、テレビCMのみならず、ホームページやチラシ、パンフレットなどでもジェネリック医薬品の安全情報を積極的に公表してもらう必要がある。

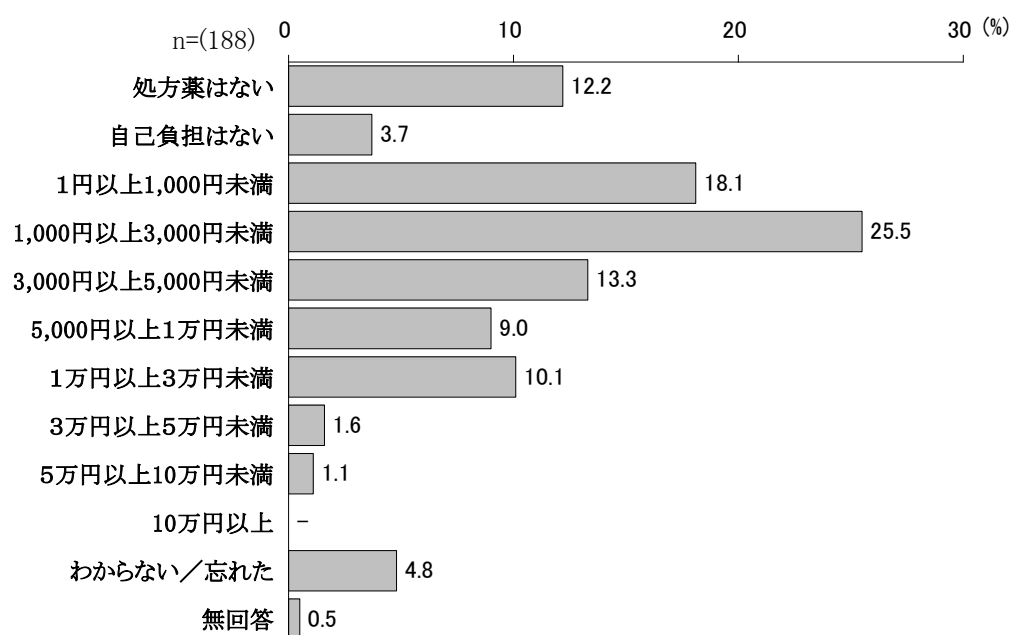
足立区はジェネリック医薬品普及協議会を通じて、ジェネリック医薬品メーカーにも「安全・安心」と「副作用」に関する情報を積極的に公表するよう働きかけを行っていく。

それに加え、「健康保険財政の負担低減効果」(37.83%)に関する情報も必要な情報として求められており、ジェネリック医薬品普及の目的である健康保険財政の視点も、区政モニターの意識の中にあることがわかった。

区民の協力によりジェネリック医薬品を選んでいただき、医療費の削減に協力いただいているのだから、「削減効果の見える化」が必要である。推計ではあるが、ジェネリック医薬品の使用率が高まると、いったいいくら効果額があったのか、金額を導き出し、グラフや図表化し、分かりやすく情報を伝えていく。

(1 1) 平成25年 1 年間のひと月あたりの薬代

問 7 平成25年 1 月から12月までの 1 年間で、あなたが医療機関や薬局の窓口で処方された薬代はひと月あたりおよそいくらですか (○は 1 つだけ)。



「1,000円以上3,000円未満」(25.5%) が 2 割台半ばで最も高く、次いで、「1 円以上 1,000円未満」(18.1%)、「3,000円以上5,000円未満」(13.3%) となっている。

【所管意見】

「平成25年1年間のひと月あたりの薬代」について

〔問7の集計結果を踏まえて〕

【現状】

薬代の金額別では、〈1円以上5,000円未満〉が56.9%、

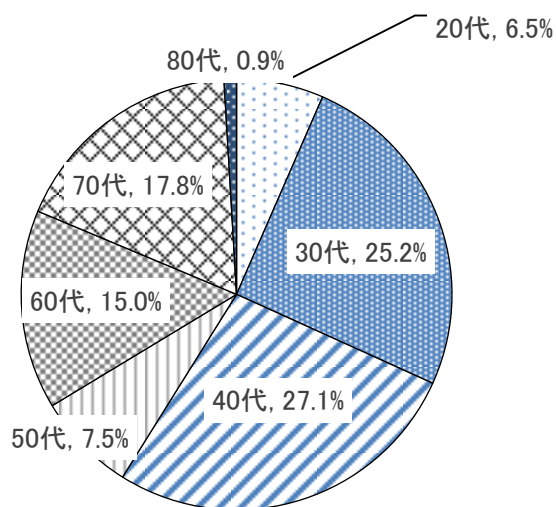
〈5,000円以上3万円未満〉が19.1%、

この薬代の金額区分で年齢階層が対照的となることがわかる。（下のグラフ参照）

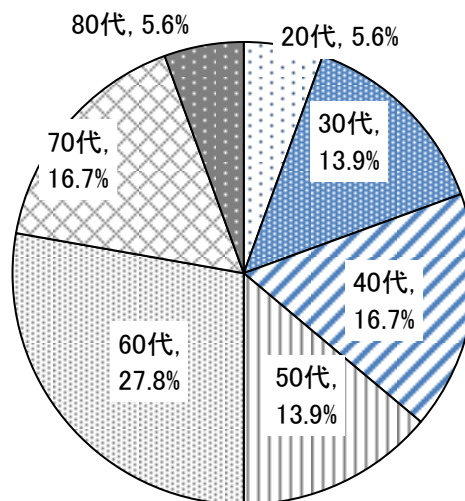
設問では、医療機関に掛かる回数は聞いていないので、1回あたりの金額は明らかでないが、〈1円以上5,000円未満〉の層は40代（27.1%）、30代（25.2%）が多く、30代と40代で過半を超えている。これに20代（6.5%）、50代（7.5%）を加えた60歳未満では67.2%となり、約7割弱が、一月あたり5,000円未満の薬剤費の支出となっている。

〈5,000円以上3万円未満〉の層で見ると回答実数は36と、ぐっと少なくなり60歳未満では（50.1%）に下がる。60代が27.3%と一番多くなり、70代が16.7%、80代が5.6%となっている。75歳以上が後期高齢者医療保険であるから、自己負担が1割負担と考えると、一月あたり、かなり高額な薬代を支払っている方がいることが分かる。

〈1円以上5,000円未満〉の年代別割合 n=107



〈5,000円以上3万円未満〉の年代別割合 n=36



【課題】

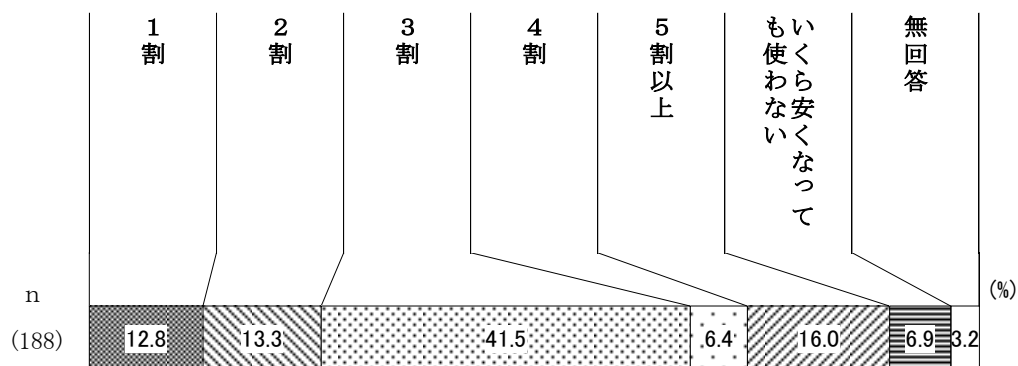
40代以下を若年者とする、薬剤費は5,000円未満が多く、50代、60代から薬剤費は5,000円以上が逆転し多くなっていく。

50代以上の方から80代までの高齢者で一月あたり5,000円を超える薬代を支払っているとすれば、この世代へのジェネリック医薬品切り替え効果を周知していく必要がある。

特に、後期高齢者の1割負担の薬代に関しては、さらにジェネリック医薬品を選んでいただくよう認知を高めたい。

(12) 先発医薬品と価格を比較した場合の使用意向

問8 あなたは、ジェネリック医薬品が先発医薬品に比べて、どれくらい安くなれば使ってもいいと思いますか（○は1つだけ）。



「3割」(41.5%)が最も高く、次いで、「5割以上」(16.0%)、「2割」(13.3%)、「1割」(12.8%)が1割台となっている。

一方、1割に満たないが、「いくら安くなっても使わない」(6.9%)という回答もある。

【所管意見】

「価格を比較した使用意向」について

〔問8の集計結果を踏まえて〕

【現状】

ジェネリック医薬品の先発医薬品との実際の価格差を理解しているのか、「3割」の価格差を求めるものが一番多い(41.5%)。価格差への期待からか、次いで「5割以上」(16.0%)となっている。

病気の症例により薬剤が異なるので、一概に価格差がどれくらいあれば、どの程度削減できるとは言いがたいが、1割から3割の価格差があれば、使用の意向がある(67.6%)ことがわかる。実際の薬価差からして価格面ではジェネリック選択の動機は満たされているといえる。

一方で、「いくら安くなっても使わない」(6.9%)の回答数は13人。その内訳は、60代4人、40代3人、30代2人、その他の世代が1人ずつとなっている。

【課題】

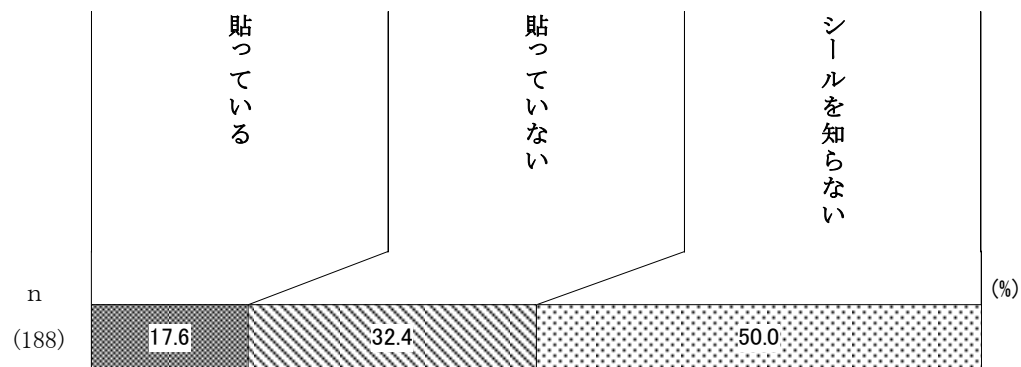
3割程度の価格差があれば、ジェネリック医薬品の使用が促されることが伺える。

しかし、「いくら安くなっても使わない」層が全世代にいたので、「使用しない理由」を個別に聞く必要がある。

(13) 希望シールの保険証への貼付有無

問9 あなたは、保険証にジェネリック医薬品の希望シールを貼っていますか

(○は1つだけ)。



「シールを知らない」(50.0%)が半数を占めて最も高く、次いで、「貼っていない」(32.4%)が3割を超えている。

一方、「貼っている」(17.6%)は、1割台半ばと、最も低くなっている。

【所管意見】

「希望シールの保険証への貼付有無」について

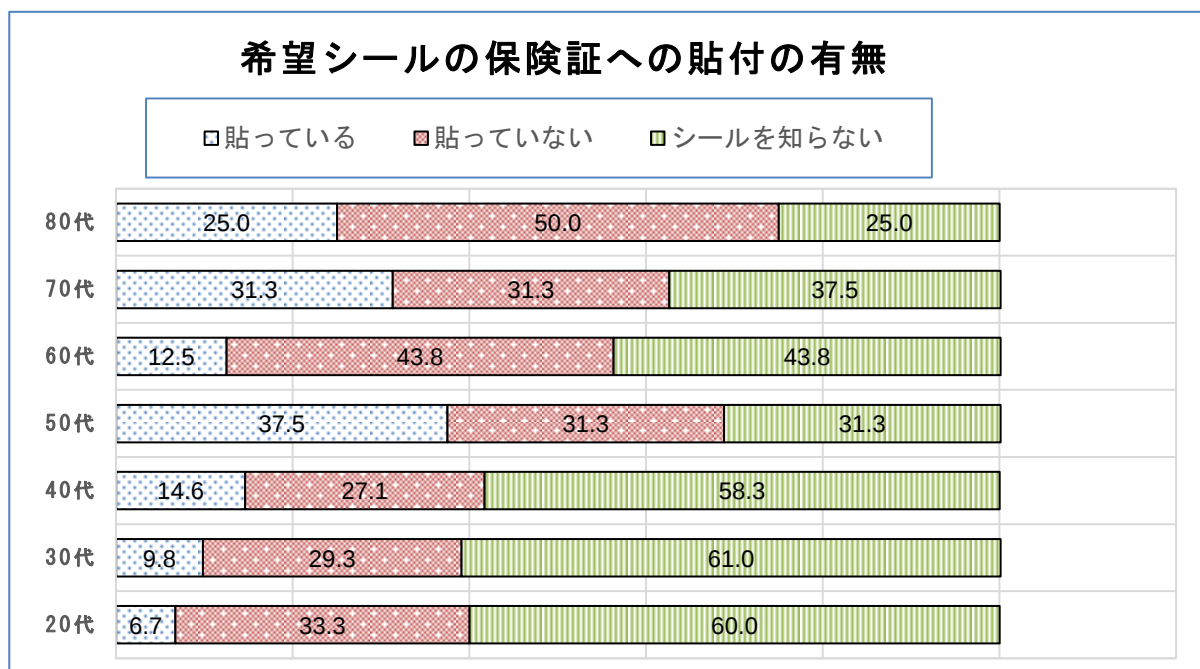
〔問9の集計結果を踏まえて〕

【現状】

「シールを知らない」が5割であり、シールの認知度の低さが明らかとなった。
年代別に見ると下図のようになる。

「貼っている」のは50代が最も多いが、「知らない」も3割を超えている。「知らない」は20代から40代までが約6割、60代は約4割、70代は4割弱、80代が2割5分と低減していく。

また、「シールを貼っていない」は、20代から50代と、70代が約3割、60代は4割、80代が5割となっている。

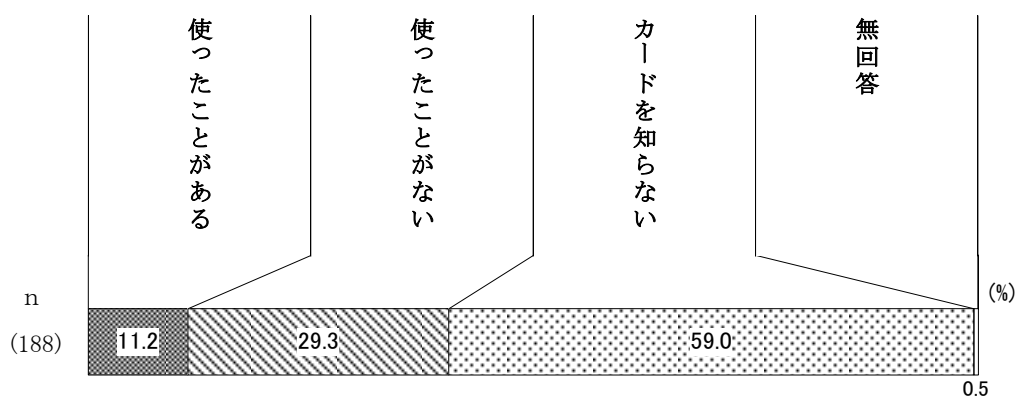


【課題】

今回の調査でシールの認知度が低いことが分かった。再度「ジェネリック医薬品希望シール」の広報と配布に努め、ホームページに写真を掲載し、また、チラシに貼り方を丁寧に解説するなどして、確実に使用してもらえるようにする。

(14) 希望カードの使用有無

問10 ジェネリック医薬品がほしいとき、カードを示す方法もあります。あなたはこのカードを使ったことがありますか（○は1つだけ）。



「カードを知らない」(59.0%) が6割近くを占めて最も高く、次いで、「使ったことがない」(29.3%) が、ほぼ3割を占めている。

一方、「使ったことがある」(11.2%) は、1割台で、最も低くなっている。



【所管意見】

「希望カードの使用の有無」について

〔問10集計結果を踏まえて〕

【現状】

カードについても6割近くが「知らない」(59.0%)と答えており、シールと同様に認知されていないことが明らかになった。

これも年代別に見ると下のようになる。

20代では「使ったことがある」と答えた方はおらず、8割超がカードそのものを知らない。

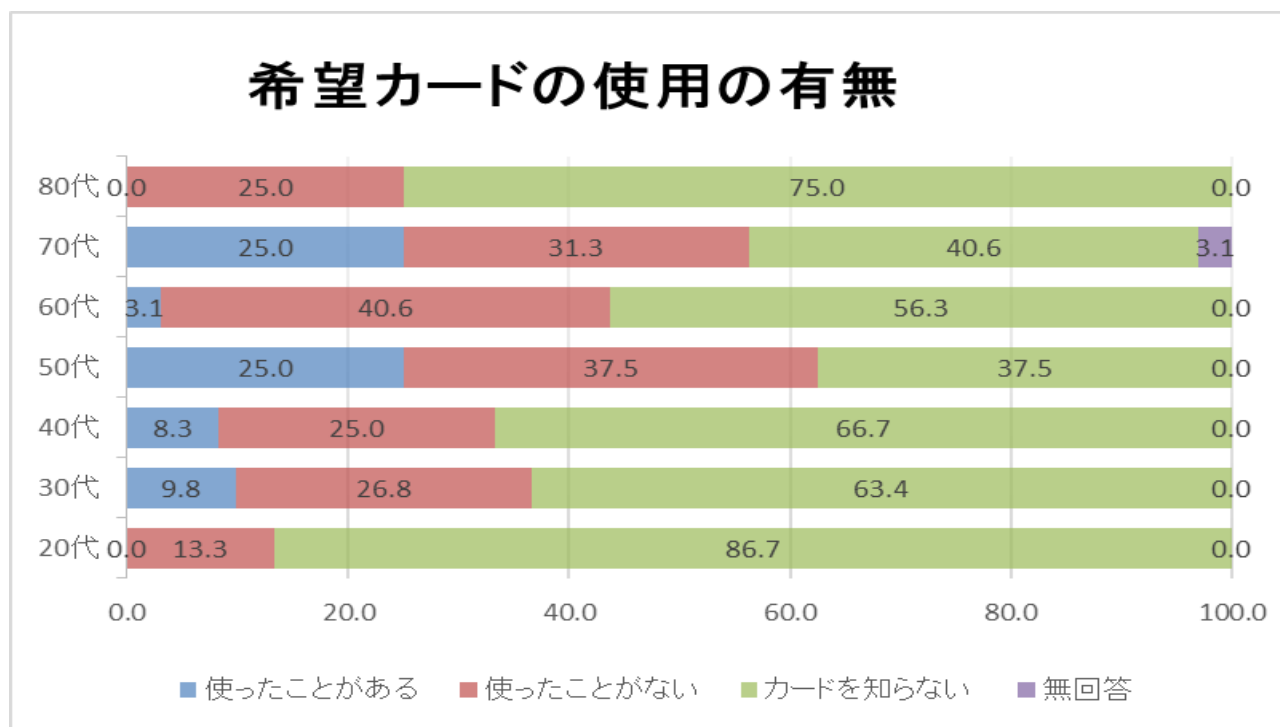
30代、40代は、「使ったことがある」が1割弱、「使ったことがない」は約25%、「知らない」が6割強いる。

50代は「使っている」は25%であるが、「知らない」も4割弱いる。

60代は「使っている」が3%にとどまり、「知らない」が5割を超える。

70代は「使っている」が25%あるものの、「知らない」が4割となる。

このように、カードの認知状況、使用状況のどちらも低く、普及してないことがわかった。



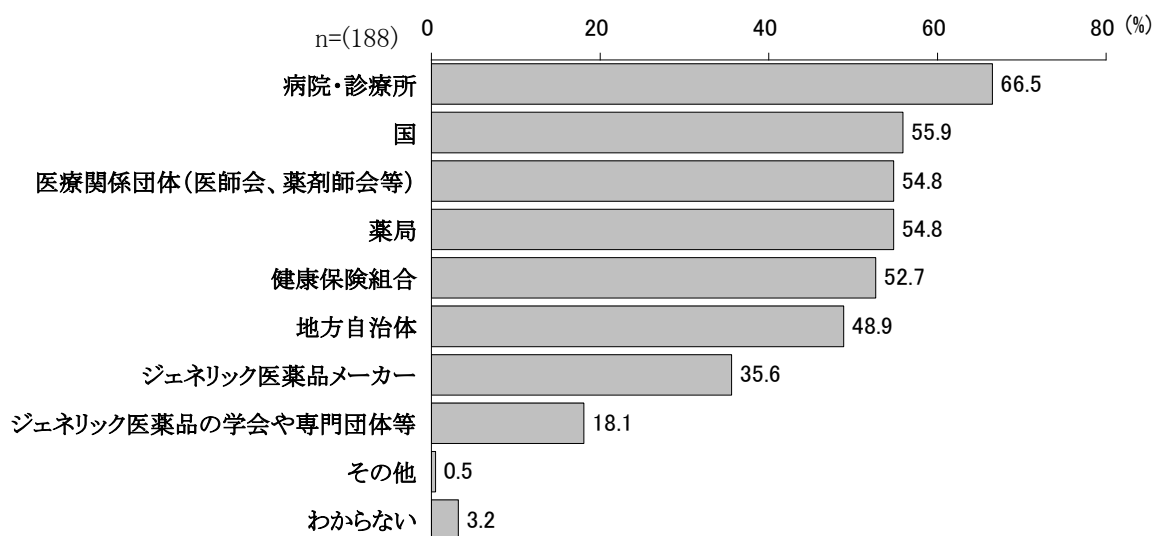
【課題】

今回の調査で「カードが知られていない」ことが分かった。

保険証とカードを別々に持つよりも、保険証にジェネリック医薬品希望シールを貼るほうが簡易的で効果があるため、シールを貼っていただくよう、広報していく。

(15) より使用されるために、中心になって取り組むべき団体

問11 あなたは、ジェネリック医薬品がもっと使用されるようになるために、どのような団体が中心になって取り組むべきと思いますか（〇はあてはまるものすべて）。



「病院・診療所」(66.5%)が6割台半で最も高く、次いで、「国」(55.9%)、「医療関係団体(医師会、薬剤師会等)」「薬局」(ともに54.8%)、「健康保険組合」(52.7%)が5割台となっている。また、「地方自治体」(48.9%)も5割弱となっている。

【所管意見】

「より使用されるために、中心になって取り組むべき団体」について

〔問11集計結果を踏まえて〕

【現状】

第1位「病院・診療所」(66.5%)。

第2位「国」(55.9%)。

第3位「医療関係団体(医師会、薬剤師会等)」「薬局」(ともに54.8%)。

続いて「健康保険組合」(52.7%)が5割を超えている。

年代での回答も下図のとおり。

20代では、第1位「病院・診療所」(80.0%)。第2位「国」(73.3%)。第3位「医療関係団体(医師会、薬剤師会等)」(66.7%)。

30代では、第1位「薬局」(61.0%)。第2位「病院・診療所」(58.5%)。第3位「健康保険組合」(46.3%)の順。

40代では、第1位「病院・診療所」(72.9%)。第2位「国」(62.5%)。第3位「医療関係団体(医師会、薬剤師会等)」、「薬局」(ともに58.3%)の順。

50代では、第1位「国」(62.5%)。第2位「医療関係団体(医師会、薬剤師会等)」(56.3%)。第3位「病院・診療所」(43.8%)の順。

60代では、第1位「病院・診療所」(65.6%)。第2位「健康保険組合」(62.5%)。第3位「薬局」、「自治体」(56.3%)の順。ここで、はじめて自治体が3位に入る。

70代では第1位「自治体」(81.3%)。第2位「病院・診療所」、「医療関係団体(医師会、薬剤師会等)」、「健康保険組合」が68.8%の同率で並ぶ。

80代では全員が「病院・診療所」(100%)と答え、第2位は「薬局」(75.0%)であった。

高齢になるほど、自治体や健康保険組合と密接な関係になるため、行政への期待が高くなっていく。

	国	地方自治体	健康保険組合	（医療関係団体、医師会等） 薬剤師会	病院・診療所	薬局	医薬品メーカー	ジェネリック医薬品 専門団体等	ジェネリック医薬品の学会	わからない	その他
20代	73.3	40.0	40.0	66.7	80.0	46.7	53.3	20.0	-	-	
30代	41.5	36.6	46.3	41.5	58.5	61.0	26.8	9.8	7.3	-	
40代	62.5	43.8	52.1	58.3	72.9	58.3	33.3	14.6	-	-	
50代	62.5	31.3	37.5	56.3	43.8	18.8	37.5	18.8	6.3	-	
60代	50.0	56.3	62.5	53.1	65.6	56.3	31.3	18.8	6.3	-	
70代	65.6	81.3	68.8	68.8	68.8	59.4	46.9	31.3	-	3.1	
80代	-	25.0	25.0	-	100.0	75.0	25.0	25.0	-	-	

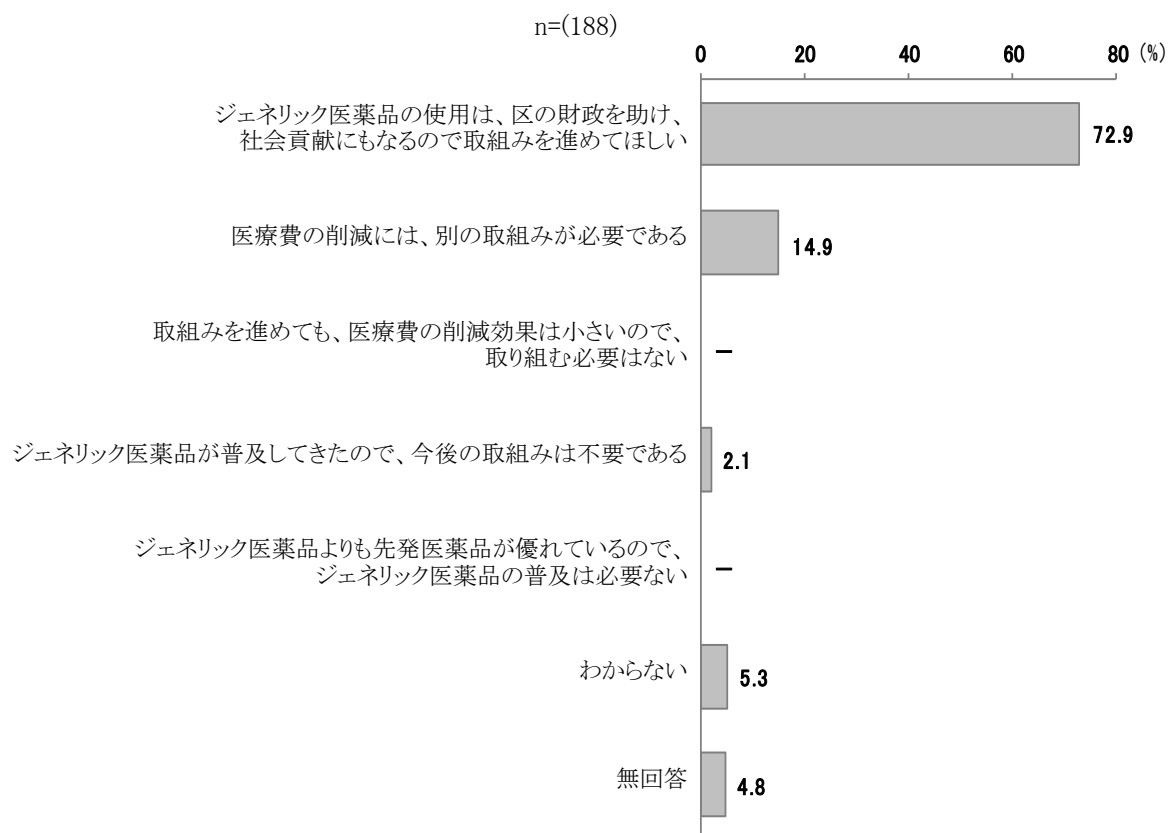
【課題解決の方向】

今回の調査でジェネリック医薬品普及に向けて取り組むべき団体への期待度がわかった。「病院・診療所」や「医療関係団体(医師会、薬剤師会等)」「薬局」等の薬剤を区民に提供する側には、ジェネリック医薬品普及協議会を通じ、積極的にジェネリック医薬品の使用促進を働きかけていく。

また、国への要望として、厚労省のジェネリック医薬品担当者へも足立区の「ジェネリック医薬品普及推進」に関する情報を報告し、国の施策に取り込んでもらう。

(16) 区が負担する医療費の削減のため、普及・促進の取組みへの評価

問12 足立区では、区が負担する医療費の削減のため、ジェネリック医薬品の普及・促進に取り組んでいます。あなたは、この取組みについてどう思われますか（○は1つだけ）。



「ジェネリック医薬品の使用は、区の財政を助け、社会貢献にもなるので取組みを進めてほしい」（72.9%）が7割を占め、圧倒的なものとなっている。

一方、「医療費の削減には、別の取組みが必要である」（14.9%）は1割台。

「ジェネリック医薬品が普及してきたので、今後の取組みは不要」（2.1%）も僅かではあるが、回答がある。



【所管意見】

「区が負担する医療費の削減のため、普及・促進の取組みへの評価」について

〔問 1 2 集計結果を踏まえて〕

【現状】

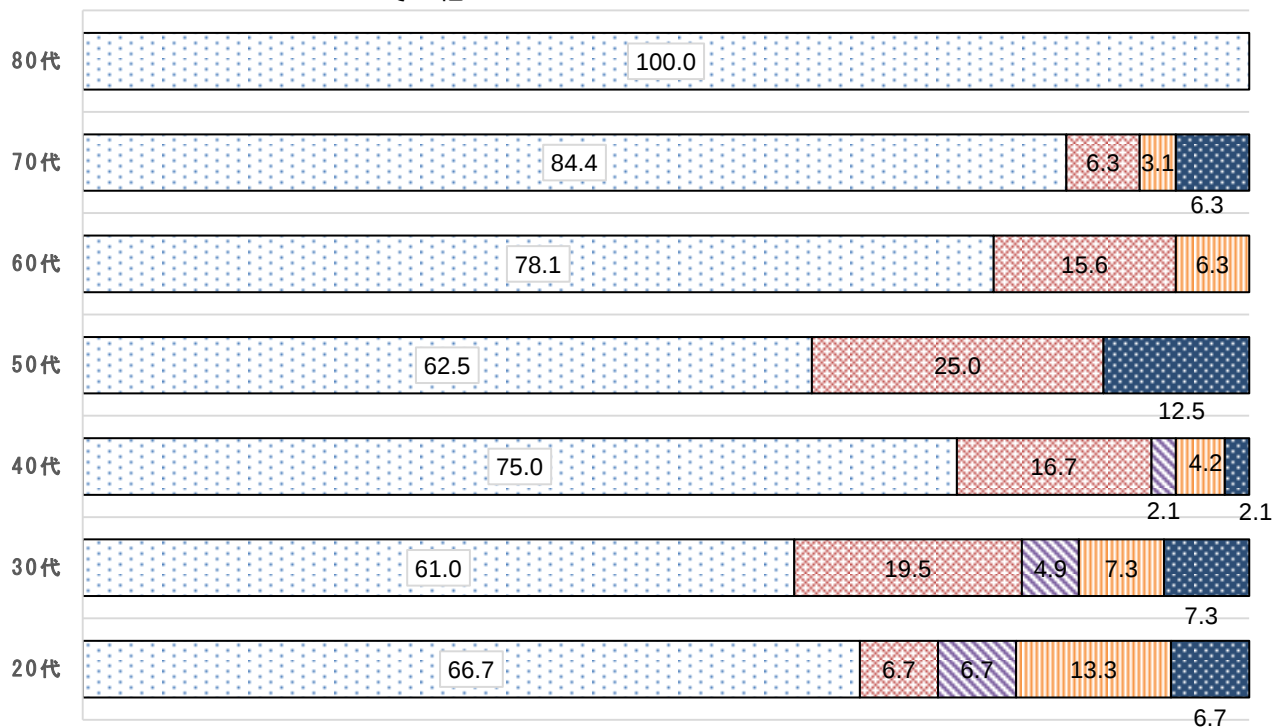
ジェネリック医薬品の認知度や普及が進むに連れ、医療費や財政に対してのジェネリック医薬品使用による費用効果も認識されつつあると考える。

「ジェネリック医薬品の使用は、区の財政を助け、社会貢献にもなるので取組みを進めてほしい」（72.9％）の回答が7割を超えたことは、一定程度の区民のジェネリック医薬品の支持を得られているものとする。

一方、「医療費の削減には、別の取組みが必要である」（14.9％）は1割台あり、こういった少数意見にも耳を傾け、酌み取ることが大切と思う。調査で提供された自由意見に関しては今後の取組みの参考とさせていただく。

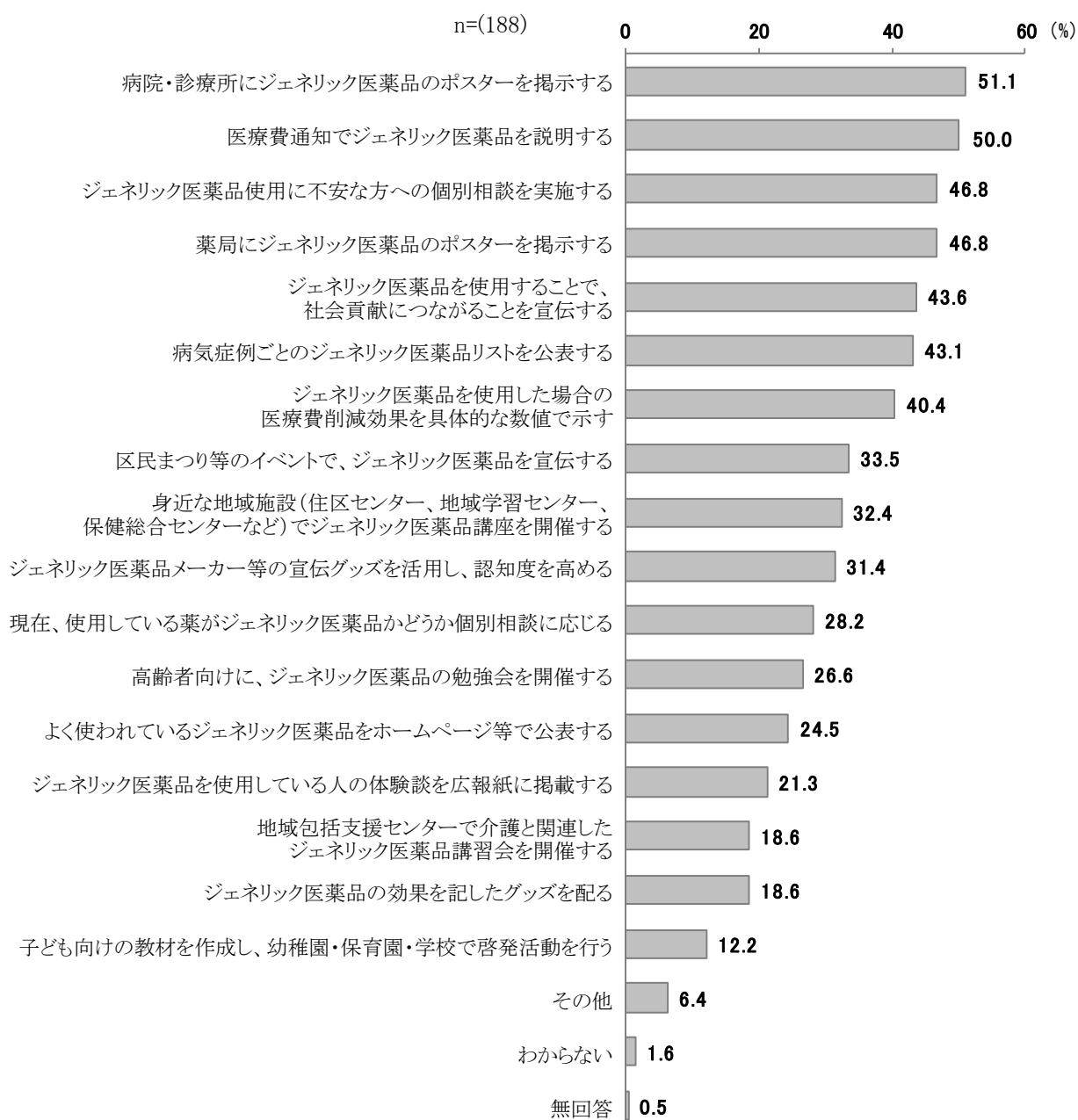
普及・促進への取組みへの評価

- 社会貢献にもなるので取組みを進めてほしい
- 医療費の削減には、別の取組みが必要である
- 普及してきたので、取組みは不要である
- わからない
- その他



(17) 使用を納得させる、または使用に前向きになるために必要な取組み

問13 ジェネリック医薬品使用に消極的な人が使用を納得するには、また、使用に前向きになるには、どのような取組みが必要だと思いますか（〇はあてはまるものすべて）。



「病院・診療所にジェネリック医薬品のポスターを掲示する」(51.1%)と「医療費通知でジェネリック医薬品を説明する」(50.0%)が半数を占め、高くなっており、「ジェネリック医薬品使用に不安な方への個別相談を実施する」「薬局にジェネリック医薬品のポスターを掲示する」(ともに46.8%)が僅差で次いでいる。

また、「ジェネリック医薬品を使用することで、社会貢献につながることを宣伝する」(43.6%)、「病気症例ごとのジェネリック医薬品リストを公表する」(43.1%)、「ジェネリック医薬品を使用した場合の医療費削減効果を具体的な数値で示す」(40.4%)が4割台となっている。

(18) 自由意見

問14 最後にジェネリック医薬品普及・促進に関するあなたの自由意見をお聞かせください。

寄せられた意見を抜粋して掲載します。

【普及・広報全般】

- ・ジェネリック医薬品の有効性と安全性をもっと知らせるべきである。(50代 男性)
- ・ジェネリック医薬品が普及してきましたが、もっと進んでいってよいと思う。医療は生きていく私たちにとって必要不可欠なものなので、もっと広い範囲で色々な人たちに知ってもらう必要がある。(40代 女性)
- ・キャンペーンとかイベントなどで広めていく方が効果があるのでは。高齢者に関しては、病院・老人ホーム、カラオケ屋さんなど、とにかく人が集まりそうなところでPRするなど。(40代 女性)
- ・今回の意識調査結果を踏まえて、各自治体の動向についても併せて周知していただければより以上に区民に対しての意識の向上に資するのではないかと思います。(80代 男性)
- ・まだまだシェアが低いと思います。(40代 男性)
- ・個人負担を軽くするためにも普及宣伝をすべきだと思う。安くて安全性、有効性が新薬と変わりなければ、保険組合も助かるのでぜひ行政で取り組んでほしい。(60代 女性)
- ・医療費の一番かかる年代に向けて宣伝の方が大事。通りいっぺんの説明ではなく、先発品より飲み方が簡単だったり、味、においが改善されているものもあるので、それをもっと宣伝する。(40代 女性)

【医師・薬剤師の説明・確認・処方について】

- ・医師の処方が先発品であるので、薬局では先発品を処方している。あえて、後発品を希望するのもどうかと思う所があり、そのままにしている。医療機関が積極的に後発品を処方すべと思う。(70代 男性)
- ・病院にかかった時に薬剤師さんからジェネリックの説明を受けて初めて知りました。知る機会が無ければ、無関心に過ごしていたと思います。(60代 女性)
- ・医師から安全性や品質が変わらないという説明をしてもらえると安心して利用する気になれると思います。(70代 男性)
- ・病院で医師から勧められたら、使ってみようかな？と思う。私は医師に確認をしながら、ジェネリックにするかしないか決めています。(40代 女性)
- ・医師が処方時にジェネリック薬品がある場合には、必ず患者に連絡するよう行政が医師会に要請して守ってもらう。薬剤師会にも同様に要請して守ってもらう。(40代 男性)
- ・薬局・病院で説明を受けるときに、先発医薬品とジェネリックを使用した場合の効き目、価格、副作用、安全性や安全性を比較した表などを見せてもらい、それからどちらを使用するか決めたい。(40代 女性)

【医療費軽減・価格について】

- ・医療費の削減の為に診察時にこちらから「ジェネリック希望」と伝えなくても医師の方から勧めてくれるといいと思う。(40代 女性)
- ・ジェネリック医薬品が医療費の軽減になる事は経済面でも助かります。(70代 女性)

- ・ 少子高齢化の時代に、患者の立場でもジェネリック医薬品の使用により、健康保険の財政負担が低減できるので、積極的に使用したい。 (70代 男性)
- ・ 区の医療費の削減を効率的に取り組んで欲しいです。 (20代 男性)
- ・ 区の財政を少しでも助けられることやできればお役に立ちたいです。 (70代 女性)
- ・ ジェネリックを選択すると個人の支払いが安くなるのは知っていましたが、区の医療費が削減につながるとは考えた事はありませんでした。 (40代 女性)

【効能・安全性について】

- ・ 名前を聞いたことはあるが、品質・安全性など実は知らない事が多いので、もっと内容を理解したいです。 (40代 女性)
- ・ 医薬品の効果や説明がよくわからないところがあります。 (70代 男性)
- ・ ジェネリック医薬品の事は、知っていましたがあまり深く説明を受けたことが無いので、消極的でした。薬の副作用（アレルギーがある）が心配ですので、その点、理解出来れば使用したいと思います。 (70代 女性)
- ・ 品質や安全性に問題が無ければ、価格が安いジェネリック医薬品を使用したい人がたくさんいると思う。その内容や存在を知らない為に先発医薬品を使っている人も多いと思います。 (30代 女性)
- ・ 個人的にはジェネリック医薬品の品質や安全性などには懐疑的です。この不安を払しょくするためには国や、医療機関がより積極的に周知活動を行っていくことが不可欠ではないでしょうか。 (40代 男性)
- ・ 私自身、薬によってジェネリックと先発品を使い分けています。効き目に違いを感じたからです。お金を支払い薬を購入するわけですから、「必ずしもジェネリックにしなければならない」という働きかけは違うように思います。 (30代 女性)

【カード・シール等の意思表示について】

- ・ カードがあるのは知らなかったの、ぜひ使いたい。 (30代 女性)
- ・ この機会にこれからはジェネリックのシールを配ります。本当に良い機会を与えて下さいました。 (70代 女性)
- ・ ジェネリック医薬品が「希望シール」「カード」の存在は知っているが入手先・入手方法がわからないので周知して欲しい。 (40代 男性)
- ・ 私は以前よりジェネリック希望シールを保険証に貼っていて、便利で安くて大変助かっています。高齢の父と母の保険証にも私が貼ってあげています。 (40代 女性)

【ジェネリックを希望しにくい事について】

- ・ 実際に薬を処方してもらう時には、別の事で頭がいっぱいの事が多く、口頭で希望を伝えるのは難しい。 (30代 女性)
- ・ 先生より話が無いので私など言いづらかった。病院の方では、高い方を出したいのではないかと気分を悪くしてはと思い、言い出せませんでした。 (70代 女性)
- ・ 体調が悪いため、医者にかかります。医師の判断によって出る薬に、ジェネリックなら先発医薬品なら、と問う力はありません。 (70代 女性)
- ・ とにかくどの病院も気軽にジェネリック薬を頼めれる環境になると良い。頼んでも断られそうな感じがするので。 (40代 男性)

【勉強会・モニターについて】

- ・当ブロックでも啓発はカードを含み盛んですが、勉強会等開かれた覚えがありません。小規模な勉強会の、開催を望みます。(70代 男性)
- ・病院に通う回数の多い方には、ぜひ勉強会などで利用を勧めると良いと思います。(20代 女性)
- ・ジェネリック医薬品については意識が無かったので、モニターに参加し、きちんと取り組みたいと思います。(60代 女性)
- ・住区センターや保健センターで講習会を開催するよりも、私は良く利用するスーパーやドラッグストアの店頭で、リーフレットなどを配ってもらえる方が、気軽に手に取ることができていいと思います。(40代 女性)
- ・高齢者の方はまだまだジェネリック医薬品には納得していない方がとても多いようですので、安心、信頼できるという勉強会をぜひ開いてほしいと思います。私自身も以前はあまり納得していませんでしたから。(50代 女性)

【薬の情報公開・情報開示について】

- ・薬がジェネリックであるかないかが、わからない。(70代 女性)
- ・しっかりとした医薬品リストをわかるようにしてほしい。病気を治すよう努力する医師が出さない薬を希望する等、知識がありません。(70代 女性)
- ・ジェネリック医薬品についての知識がないため、意見として述べることはできませんが、高齢者にとってジェネリックという言葉がよくわかりませんので、よりくだいた（日本語的な）説明が欲しいと思います。(70代 男性)
- ・ジェネリック医薬品のことをよく知らないので、どういうものなのかという認知度を高める事から始めた方が良くと思う。難しい説明文だけではなく、絵を使った説明をするなど、誰にでも理解できるような説明を心がけて欲しい。(20代 女性)

【その他】

- ・今のところ、関心がありません。(60代 女性)
- ・ジェネリック医薬品について情報が色々な事に入って来るが、まだなんとなくで、はっきりしたことがわからないので、具体的に比べられない。(70代 女性)
- ・高齢者の負担割合を1割から3割にすべきではないか。お年寄りほど病院に行く時間、金銭的余裕もあり、1人当たりの病院に行く回数、薬を処方してもらう量も多いと思う。1割だからとたくさん薬をもらうことが多いのは、自分の家の年寄を見ていて感じます。(50代 女性)
- ・ジェネリック製造メーカー会社の詳しい情報がわかるようにしてほしい。(40代 女性)

■使用した調査票

モニター番号 番
(必ず記入してください)

平成26年度 第1回 区政モニターアンケート

《ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する意識調査》

《ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する意識調査》

ジェネリック医薬品は、現在、全国で使用されている薬の2割以上を占めるほど一般的になっています。足立区においても、ジェネリック医薬品の普及促進に取り組んでいます。

区民のみなさまから「ジェネリック医薬品に関して、どのように感じているのか」、「ジェネリック医薬品の使用に前向きになるためには、どのような取り組みを行えば良いのか」など、ご意見をいただき、今後の普及活動につなげていきたいと考えております。

区政モニターのみなさまの率直なご意見をいただきたく、このアンケートを実施します。ぜひご協力をお願いいたします。

ジェネリック医薬品（後発医薬品）について、お伺いいたします

ジェネリック医薬品（後発医薬品）とは

ジェネリック医薬品（後発医薬品）とは、特許を得て独占販売されている新薬（先発医薬品）の特許が切れた後に製造販売される医薬品で、有効性や安全性が実証されてきた先発医薬品と有効成分が同じで、同等の効果があると厚生労働省から製造販売が認められた医薬品です。先発医薬品に比べて研究開発費が抑えられているため、価格が安く設定されており、薬代の患者負担、健康保険財政の負担の低減につながります。

*ただし、すべての薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。

*薬局に在庫がない場合など、ジェネリック医薬品に切り替えられない場合もあります。

問1 あなたは、ジェネリック医薬品を知っていましたか（○は1つだけ）。

n=188

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 内容まで知っている | 75.5% |
| 2. 名前は聞いたことがある | 22.3% |

- | | | |
|-----------|-------|-----|
| 3. 知らなかった | → 1.1 | 問5へ |
| 無回答 | 1.1 | |

問1で「1. 内容まで知っている」、または「2. 名前は聞いたことがある」とお答えの方は、次の問2から問4について、お答えください。

問2 ジェネリック医薬品のことをどうやって知りましたか（○はあてはまるものすべて）。

n=184

- | | | | |
|----------------|-------|--------------------|------|
| 1. 医療機関で説明を受けた | 32.6% | 7. 国民健康保険団体連合会等の広報 | 14.1 |
| 2. 薬局で説明を受けた | 58.2 | 8. テレビCM | 57.1 |
| 3. 本や雑誌 | 33.2 | 9. インターネット | 10.9 |
| 4. 新聞 | 40.2 | 10. 家族、友人から聞いた | 18.5 |
| 5. 国の広報 | 10.9 | 11. 医療機関等のポスター | 35.3 |
| 6. 自治体の広報 | 19.0 | 12. その他（ ） | 6.5 |

問3 ジェネリック医薬品に関して、以下の項目について、どのように感じているかお答えください（○はそれぞれ1つだけ）。 n=184

	そう 思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	わから ない	無回答
回答例 -----> 1 (2)	1	(2)	3	4	5	
ア. 先発医薬品と薬効成分が同じで、効き目に違いがない薬である	51.6%	34.8	5.4	1.6	5.4	1.1
イ. 先発医薬品と安全性・品質に違いがない薬である	48.9	32.1	9.8	2.7	6.0	0.5
ウ. 先発医薬品と薬効成分は同じだが、価格が安い薬である	73.9	18.5	3.3	1.1	2.2	1.1
エ. 先発医薬品に比べて価格は安い、その分劣るところがある薬である	7.6	16.3	25.0	43.5	7.1	0.5
オ. 先発医薬品に比べて価格は安くても、より優れたところがある薬である	1.6	10.9	37.5	35.3	14.1	0.5
カ. 同じ薬効成分のジェネリックを複数のメーカーが販売していて価格も違うことがある	24.5	25.0	8.7	3.3	0.5	0.5

問4 あなたは、平成25年1月から12月までの1年間に医療機関を受診して、薬の処方を受けましたか（○は1つだけ）。 n=184

1. 受けた → 84.8% 問4-1へ	2. 受けなかった → 15.2 問5へ
----------------------	----------------------

(問4で「1. 受けた」とお答えの方に)

問4ー1 あなたは薬の処方を受けて薬局で薬をもらうときに、ジェネリック医薬品についてどのように対応していますか (○は1つだけ)。 n=156

1. 処方せんを渡すときにジェネリックを希望すると伝える	17.3%
2. ジェネリックの希望を聞かれれば、希望すると伝える	39.7
3. 以前からジェネリックなので、特に希望は伝えないが、ジェネリックをそのまま続けて使用していきたい	10.9
4. 医師にジェネリックの処方せんを出すようお願いしている	3.8
5. 処方せんを渡すときにジェネリックは希望しないと伝える	0.6
6. ジェネリックの希望を聞かれても、希望しない	6.4
7. ジェネリックの希望を聞かれなければ、自分から希望はしない	10.9
8. 医師にジェネリックへの切替え不可の処方せんを出すようお願いしている -	
9. その都度ジェネリックについて価格差・効能・アレルギーなど説明を聞いた上で、使用を判断する	4.5
10. わからない	0.6
11. その他 (	3.8
無回答	1.3

→ (問4ー1で「1.」～「4.」のいずれかに○を付けた方に)

問4ー2 あなたがジェネリック医薬品を希望する理由は何ですか (○はあてはまるものすべて)。 n=112

1. 先発医薬品と効き目に違いがないから	62.5%
2. 先発医薬品と安全性・品質に違いがないか	61.6
3. 先発医薬品より価格が安いから	80.4
4. 先発医薬品より優れていると思うから	1.8
5. これまで使用してきて問題が無かったから	37.5
6. 医師が積極的に勧めてくれたから	6.3
7. 薬剤師の説明に納得したから	22.3
8. 医師または薬剤師に希望を気軽に伝えられるから	6.3
9. 健康保険から差額通知※が来たから	2.7
10. 健康保険財政の負担低減につながるから	37.5
11. その他 (	3.6
無回答	2.7

※差額通知とは、先発医薬品をジェネリック医薬品に切り替えた場合の差額分を知らせる通知を指します。

問4ー3へ

(問4-1で「5.」～「8.」のいずれかに○を付けた方に)

問4-3 あなたがジェネリック医薬品を希望しない理由、または、以前はジェネリック医薬品を使用していたが、今は希望しない理由は何ですか (○はあてはまるものすべて)。 n=28

1. 先発医薬品と比べて、効き目に違いがあるように思うから	35.7%
2. 副作用・安全性に不安があるから	32.1
3. 品質に不安があるから	28.6
4. 味・匂い・飲み心地・使い勝手などが劣るから	-
5. 薬の色や形が先発医薬品と違うから	3.6
6. アレルギーが心配だから	3.6
7.それほど安くないから	14.3
8. 薬局が扱っていないから	3.6
9. 薬局に在庫が無くて、後で取りに行くのが面倒だから	7.1
10. 先発医薬品を使い慣れているから	28.6
11. 医師に希望を言いづらいから	7.1
12. 医師があまり勧めないから	7.1
13. 薬剤師に希望を言いづらいから	3.6
14. 薬剤師があまり勧めないから	-
15. 薬剤師の説明がよくわからないから	-
16. 以前は使用していたが、問題があって今は使用していない	-
17. その他 ()	14.3
無回答	7.1

→ (問4-3で「16. 以前は使用していたが、問題があって今は使用していない」とお答えの方に)

問4-4 どんな問題があってジェネリック医薬品を使わなくなりましたか。
(○はあてはまるものすべて) n=0

1. 効き目に違いがあるように思えたから	-
2. 副作用・安全性に不安を感じたから	-
3. 品質に不安があったから	-
4. 味・匂い・飲み心地・使い勝手などに不満があったから	-
5. 期待ほど安くならなかったから	-
6. 薬局が扱わなくなったから	-
7. 薬局に在庫が無くて、後で取りに行くのが面倒だったから	-
8. 使い比べてみて、先発医薬品のほうが使い慣れていたから	-
9. 毎回希望を言うのが面倒だったから	-
10. 医師が処方しなくなったから	-
11. 薬剤師がジェネリック医薬品を出さないから	-
12. 薬剤師が説明してくれなくなったから	-
13. その他 ()	-

ここから再び、すべての方にお伺いいたします。

問5 あなたが今後、薬の処方を受ける場合、どんなことがあればジェネリック医薬品を使ってみたい、あるいは今後も使い続けようと思いますか（〇はあてはまるものすべて）。n=188

1. 医師からの勧めと十分な説明があること	67.6%
2. ジェネリック医薬品使用の希望が言いやすいこと	36.2
3. 薬剤師からの勧めと十分な説明があること	60.6
4. 先発医薬品と効き目・安全性・品質に違いがないことが分かること	73.4
5. 先発医薬品との価格差が大きいこと	38.3
6. 信頼できるメーカーが製造していること	44.1
7. 広く使用されていることがわかること	35.6
8. ジェネリック医薬品の詳しい情報が簡単に入手できること	33.0
9. 味・匂い・飲み心地・使い勝手などが先発医薬品より良いこと	10.6
10. 健康保険から差額通知※が来ること	19.1
11. ジェネリックの使用が伸びると健康保険の財政負担が どのくらい低減できるかがわかること	29.8
12. 自分の周り（家族・友人・知人）からの勧めがあること	5.9
13. どのような条件があってもジェネリック医薬品を使いたくない	1.1
14. その他（ ）	2.7
無回答	0.5

※差額通知とは、先発医薬品をジェネリック医薬品に切り替えた場合の差額分を知らせる通知を指します。

問6 ジェネリック医薬品について、あなたが必要だと思う情報は何か（〇はあてはまるものすべて）。n=188

1. 品質 77.7%	4. 価格 63.8	7. 健康保険財政の負担低減効果 37.8
2. 安全性 86.2	5. 薬品の種類や名称 25.5	8. わからない 1.1
3. 有効性 61.7	6. 副作用について 57.4	9. その他（ ） 2.7
	無回答	0.5

問7 平成25年1月から12月までの1年間で、あなたが医療機関や薬局の窓口で処方された薬代はひと月あたりおよそいくらですか（〇は1つだけ）。n=188

1. 処方薬はない 12.2%	7. 1万円以上3万円未満 10.1
2. 自己負担はない 3.7	8. 3万円以上5万円未満 1.6
3. 1円以上1,000円未満 18.1	9. 5万円以上10万円未満 1.1
4. 1,000円以上3,000円未満 25.5	10. 10万円以上 -
5. 3,000円以上5,000円未満 13.3	11. わからない／忘れた 4.8
6. 5,000円以上1万円未満 9.0	無回答 0.5

問8 あなたは、ジェネリック医薬品が先発医薬品に比べて、どれくらい安くなれば使ってもいいと思いますか（○は1つだけ）。 n=188

1. 1割	12.8%	3. 3割	41.5	5. 5割以上	16.0
2. 2割	13.3	4. 4割	6.4	6. いくら安くなっても使わない	6.9
				無回答	3.2

問9 あなたは、保険証にジェネリック医薬品の希望シールを貼っていますか（○は1つだけ）。 n=188

1. 貼っている	17.6%	2. 貼っていない	32.4	3. シールを知らない	50.0
----------	-------	-----------	------	-------------	------

問10 ジェネリック医薬品がほしいとき、カードを示す方法もあります。あなたはこのカードを使ったことがありますか（○は1つだけ）。 n=188

1. 使ったことがある	11.2%	2. 使ったことがない	29.3	3. カードを知らない	59.0
				無回答	0.5

問11 あなたは、ジェネリック医薬品がもっと使用されるようになるために、どのような団体が中心になって取り組むべきだと思いますか（○はあてはまるものすべて）。 n=188

1. 国	55.9%	6. 薬局	54.8
2. 地方自治体	48.9	7. ジェネリック医薬品メーカー	35.6
3. 健康保険組合	52.7	8. ジェネリック医薬品の学会や専門団体等	
4. 医療関係団体（医師会、薬剤師会等）			18.1
	54.8	9. わからない	3.2
5. 病院・診療所	66.5	10. その他（ ）	0.5

問12 足立区では、区が負担する医療費の削減のため、ジェネリック医薬品の普及・促進に取り組んでいます。あなたは、この取組みについてどう思われますか（○は1つだけ）。 n=188

1. ジェネリック医薬品の使用は、区の財政を助け、社会貢献にもなるので取組みを進めてほしい	72.9%
2. 医療費の削減には、別の取組みが必要である	14.9
3. 取組みを進めても、医療費の削減効果は小さいので、取り組む必要はない	-
4. ジェネリック医薬品が普及してきたので、今後の取組みは不要である	2.1
5. ジェネリック医薬品よりも先発医薬品が優れているので、ジェネリック医薬品の普及は必要ない	-
6. わからない	5.3
7. その他（ ）	4.8

問13 ジェネリック医薬品使用に消極的な人が使用を納得するには、また、使用に前向きになるには、どのような取組みが必要だと思いますか（○はあてはまるものすべて）。 n=188

1. 医療費通知※でジェネリック医薬品を説明する	50.0%
2. 病気症例ごとのジェネリック医薬品リストを公表する	43.1
3. 現在、使用している薬がジェネリック医薬品かどうか個別相談に応じる	28.2
4. ジェネリック医薬品使用に不安な方への個別相談を実施する	46.8
5. 高齢者向けに、ジェネリック医薬品の勉強会を開催する	26.6
6. 子ども向けの教材を作成し、幼稚園・保育園・学校で啓発活動を行う	12.2
7. 身近な地域施設（住区センター、地域学習センター、保健総合センターなど）でジェネリック医薬品講座を開催する	32.4
8. 地域包括支援センターで介護と関連したジェネリック医薬品講習会を開催する	18.6
9. ジェネリック医薬品の効果を記したグッズを配る	18.6
10. 区民まつり等のイベントで、ジェネリック医薬品を宣伝する	33.5
11. ジェネリック医薬品メーカー等の宣伝グッズを活用し、認知度を高める	31.4
12. 病院・診療所にジェネリック医薬品のポスターを掲示する	51.1
13. 薬局にジェネリック医薬品のポスターを掲示する	46.8
14. ジェネリック医薬品を使用している人の体験談を広報紙に掲載する	21.3
15. ジェネリック医薬品を使用した場合の医療費削減効果を具体的な数値で示す	40.4
16. よく使われているジェネリック医薬品をホームページ等で公表する	24.5
17. ジェネリック医薬品を使用することで、社会貢献につながることを宣伝する	43.6
18. わからない	1.6
19. その他（ ）	6.4
無回答	0.5

※医療費通知とは、健康保険で医療機関等を受診した場合に医療機関等に支払われる額を知らせる通知を指します。

問14 最後にジェネリック医薬品普及・促進に関するあなたの自由意見をお聞かせください。

ありがとうございました